

福岡県西方沖地震で被災した玄界島の復興に関するアンケート調査

長崎大学 フェロー ○高橋和雄 (株)フジタ 正会員 杉山豊隆
 長崎大学 正会員 中村聖三

1. はじめに

平成17年3月20日に発生した福岡県西方沖地震により、震源に最も近かった玄界島では斜面地の住宅と宅地が甚大な被害を受けた。玄界島の住民は福岡市内と玄界島内の応急仮設住宅に分散して避難生活を送っている。今回の地震では漁船や漁場の被害は少なかったため仕事や雇用には問題はない。したがって、復興は住宅の再建が主要となる。玄界島の復興計画策定の着手は迅速で、斜面の防災工事と住宅地の再生を柱として検討が進められた。平成18年1月に「玄界島復興対策委員会」が策定した、島の復興計画案が提示され、地域住民が合意した。これにより、被災家屋の撤去が始まり、島の復興が本格的に動き出している。

そこで、本研究では、復興計画がまとまり、これから本格的に復興が始まる玄界島住民を対象に復興と現在の生活等のアンケート調査を行い、復興計画、現在の状況、将来の玄界島などを明らかにするものである。

2. 玄界島復興計画の内容

平成18年1月に合意された玄界島の復興計画は、住宅・道路・公園などの整備計画で、島内に戸建て宅地50区画、市営住宅80戸、県営住宅50戸が新たに整備される。事業手法に小規模住宅地区改良事業を適用し、福岡市が住宅と宅地を買い上げ、斜面の防災工事や基盤整備を行った。後に、住宅を再建する住民が宅地を買い戻す計画である。事業計画によれば2月中旬に被災した建物や土地の買収に着手し、3月に被害家屋の解体を開始する。平成19年春に復興事業の完了を目指す予定である。

3. アンケートの実施方法

平成18年1月に玄界島と西区博多漁港かもめ広場の応急仮設住宅に住む玄界島住民を対象にアンケート調査を行った。アンケートの配布・回収は手渡しとし、不在の世帯については一部郵送を依頼した。アンケート調査票は138部配布し、106部回収した(回収率76.8%)。

4. 主な分析結果

4.1 現在の状況 震災から9ヶ月が過ぎ、避難生活が長期化している。そこで「現在の状況はいかがですか」と聞いたところ、表-1のように、大部分が落ち着きを取り戻しつつあるようで、目途もたってきたようである。しかし、「年中行事を普段通りできましたか」と聞いたところ、106世帯のうち53世帯が「できなかった」もしくは「無回答」であることから、半数の世帯では普段通りできなかったようである。

表-2のようにできたものは「お盆」58.5%、「正月」50.9%となった。

4.2 今後の生活の見通し 「復興計画の策定にあたり地域住民の意見がどのように反映されましたか」と聞いたところ、図-1のように「少し反映された」45.5%、「かなり反映された」28.4%と住民が主体となって提案し福岡市が支援した復興計画にしては、反映されたという意見は多くはない。また、「玄界島の復興計画をどう評価しますか」と聞いたところ、図-2のように、「大いに満足で

表-1 現在の生活状況

N=100			
項	目	人	%
まだリズム・落ち着きを取り戻していないが、目途はたった		42	42.0
だいたいリズム・落ち着きを取り戻した		40	40.0
まだリズム・落ち着きを取り戻しておらず、目途もたっていない		18	18.0

表-2 普段通りにできた年中行事

N=53 (複数回答)		
項 目	人	%
お盆	31	58.5
正月	27	50.9
家族の誕生日	18	34.0
地域の祭り	1	1.9

キーワード：福岡県西方沖地震、復興計画、地震防災

連絡先：〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学工学部社会開発工学科 Tel095-819-2610 Fax095-819-2627

きる」、「ほぼ満足できる」の計は36.0%となり、復興計画の満足度は必ずしも高くない。そこで、「応急仮設住宅を出た後、どのようにするか決まりましたか」と聞いたところ、「ほぼ決まっている」63.5%、「希望はあるが実現できるかわからない」28.1%、「その他」1.0%であった。また、「暮らそうと思っている住宅の種類と場所はどこですか」と聞いたところ、「賃貸公営住宅」56.1%、「一戸建て住宅」26.8%となった。平成17年7月の「希望する住宅の種類」と比較すると一戸建て住宅は半減し、公営住宅は倍増している。また、家の再建に向けて「どのような資金計画をお持ちですか」と聞いたところ、「福岡市による被災住宅・宅地の買い上げ」が70.8%となったが、「金融機関からの融資」、「住宅金融金庫の災害の災害復興住宅融資」などは少ない。住宅再建での資金面で問題があり、復興計画の評価が分かれているのではないかと考えられる。高齢者の世帯に対する融資条件の緩和などの対応が必要であると考えられる。

4.3 玄界島の将来 玄界島住民の大部分は、玄界島は自然がよく、漁業が盛んな、かつ、みんなが仲の良い島である、すなわち「玄界島はいいところである」とのイメージをしている。しかし、「今から3年後の玄界島は、地震前と比較してどのようになっていると思いますか」と聞いたところ、図-3のように「人口」は85.9%が「少なくなる」と回答した。また、「島内の付き合い」も26.7%が「少なくなる」と回答した。また、「あなたが夢見る玄界島の復興のためには今後どのようなことが必要だと思いますか」と聞いたところ、表-3のように、「漁業の維持・活性化」や「高齢化対策・福祉・医療施設の充実」、「少子化対策・育児教育施設の充実」が上位を占めた。このことから、住宅再建・斜面地の整備の復興だけではなく、地域の活性化、生活環境の充実等の各種の振興計画の検討が必要であると考えられる。

5. まとめ

- 本研究をまとめると次のようになる。
- (1)被災住民はある程度の落ち着きを取り戻しつつあるが、通常の生活には戻っていない。
 - (2)復興計画の満足度は高くない。住宅の再建で資金計画が大きな課題である。
 - (3)住宅再建に加えて地域活性化策などの振興計画の検討が必要であると考えられる。
- その他のアンケート調査の内容は、講演時に発表する。

謝辞

アンケート調査に協力を頂いた玄界島の被災者の皆様には、深く感謝の意を表すとともに、一日も早く以前のような生活を取り戻され、玄界島が復興することをお祈りいたします。なお、本アンケートの設問は、東洋大学田中教授の許可を得て新潟県中越地震で被災した山古志村の復興アンケート共通設問を設けています。

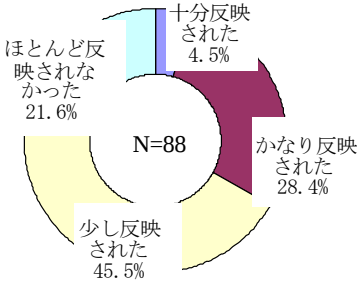


図-1 住民の意見の反映

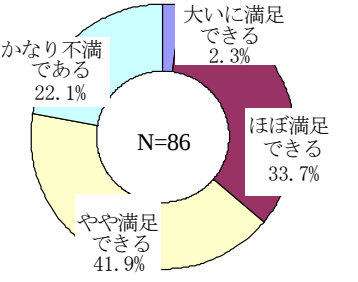


図-2 復興計画の満足度

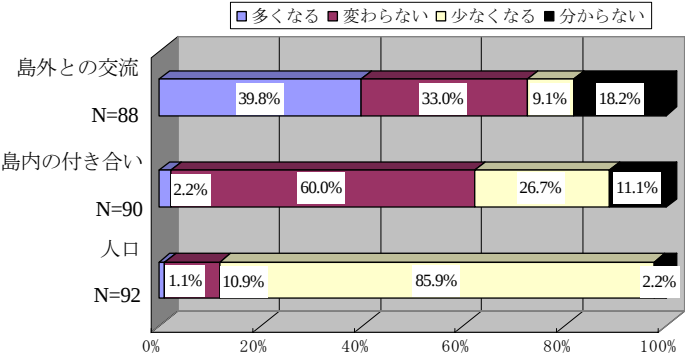


図-3 3年後の玄界島

表-3 復興のために必要なもの

N=89 (複数回答)			
項	目	人	%
漁業の維持・活性化		74	83.1
高齢化対策・福祉・医療施設の充実		70	78.7
少子化対策、育児・教育施設の充実		58	65.2
玄界島の歴史・文化・伝統の保存・維持		50	56.2
新たな特産品の開発		38	42.7
豊かな海を生かした観光復興		36	40.4
玄界島の外の人達向けの宣伝・PR活動		26	29.2
新規産業の創造・誘致		22	24.7
被災の痕跡を活用した観光拠点づくり		16	18.0
その他		7	7.9